

読売新聞 きょう（9月3日）のイチ押し

1面・3面 新型コロナ感染者の自宅療養情報を提供せず

新型コロナウイルスに感染した自宅療養者の氏名や住所などの個人情報について、34都府県が、把握している情報を管内の市町村に提供していませんでした。療養者の健康観察や生活支援に支障が出ています。本紙の全国調査で判明しました。

- ★ 感染者情報は各地の保健所が一括して管理し、健康観察、食料配送などの生活支援にも目配りします。ところが感染急拡大で保健所の業務が逼迫し、生活支援にまで手が回らないケースも増えています。
- ★ 政令市や東京23区など自前の保健所を持つ自治体は、療養者に対してきめ細かい支援を行うことも可能です。一方、都道府県が設置し、複数の市町村エリアをまとめて管轄する「広域保健所」に属する大半の自治体では、都道府県からの情報提供がないと対応が困難です。
- ★ 情報提供をしない理由について、19都府県は「個人情報の保護」を挙げ、「感染したかどうかの情報は人権にかかわる」などとしています。提供する自治体でも、13道府県は「本人の同意」を取っていました。

社会面 池袋暴走 禁錮5年 東京地裁判決

東京・池袋で2019年4月に母子2人が死亡、9人が重軽傷を負った暴走事故で、東京地裁は自動車運転死傷行為処罰法違反（過失運転致死傷）に問われた旧通産省工業技術院の元院長・飯塚幸三被告（90）に禁錮5年の判決を言い渡しました。

被告側は公判で「車の異常」による無罪を主張しましたが、判決はブレーキとアクセルを踏み間違えて暴走したと認定。過失を否定する被告の姿勢を「事故に真摯（しんし）に向き合っていない」と批判しました。

他紙と比べて

10月30日から11月15日まで奈良国立博物館で開かれる「第73回正倉院展」。28面では、極彩色の仏具「漆金薄絵盤（うるしきんぱくえのばん）」といった今回の目玉となる展示品をカラーで紹介しています。この展覧会に特別協力する本紙は、これからも特集紙面などを随時掲載し、魅力や見どころをお伝えします。